

平成二十五年 生活学校・生活会議運動  
**中部・近畿ブロック研究集会 in 石川県(報告)**  
 二十五年十月二日(水)・三日(木) KKRホテル金沢

○はじめに

公益財団法人あしたの日本を創る協会指導のもと、例年全国5ブロックで開催している。中部・近畿ブロックの対象は十二府県(富山・福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山・三重・岐阜・愛知・石川)である。

今年度、石川県で開催するにあたり、単位の代表に声をかけ実行委員会を組織し、万全の体制で臨んだ。それぞれが役割をこなすことで、結束が高まり活性化にもつながった。

主催は、公益財団法人あしたの日本を創る協会、全国生活学校連絡協議会、まち・むら全国ネット、石川県新生活運動協議会、石川県生活学校連絡会。後援は、石川県金沢市、石川県公民館連合会、石川県社会教育協会。協力団体として、石川県消費生活支援センター、石川県女性センター、石川県立生涯学習センター。

参加者は両日で延べ三百二十名。交流会には県内外より百四十名と、新生活運動協議会委員さんや単位の皆さんのご支援とご協力により、かつてない規模で成功裡に大会を終えることができた。

以下開催内容を報告する。

○開会行事

開会挨拶  
 石川県生活学校連絡会  
 会長 本 瑠恵様



あしたの日本を創る協会  
 理事長 榎 誠様

祝辞

石川県知事 谷本正憲様  
 (代読) 石川県消費生活支援センター  
 所長 浜田 憲一様  
 金沢市長 山野之義様  
 (代読) 金沢市市民局人権女性政策推進課  
 課長 坂井美津江様

来賓紹介

石川県公民館連合会  
 会長 谷村昭雄様  
 石川県消費生活支援センター  
 所長 浜田憲一様  
 石川県教育協会  
 会長 新村健了様  
 石川県立生涯学習センター  
 館長 村澤 勉様  
 石川県女性センター  
 館長 笠間愛子様  
 石川県新生活運動協議会  
 理事 林 よし枝様

○基調講演

「地域づくり  
 『仰天アイデアを生み出す秘密』」  
 講師  
 羽咋市文化財室長(歴史民俗資料館) 高野誠鮮様

第一声「何もしない人は絶対に失敗しない！」人は失敗から学ぶのだ。仰天アイデアを生み出すためには、考え方を変えるしかない。では課題を突きつけられたらどうするか？

- ①改善できる可能性を模索(出来ない理由をあげない)
- ②現状・状況を構造的に見る(直線・表面的に考えないWHY思考)
- ③根本的な原因に対して対応する(表面的な対策をしない。大会、会議開催だけで終わらない)

- ④従来のルールを無視してみる(従来の方法では解決できなかったか)
- ⑤構成する基本単位で考えてみる(例 集落、人)
- ⑥活性化ドラマとして考え、ストーリーを考えてみる
- ⑦自分以外を「条件」にしない(例 予算、住民、上司)
- ⑧立場を変えてみる(例 医師、プロデューサーなど)
- ⑨全て関係していると考え(地球規模で考える)

羽咋市神子原地区の活動をあげ、いかに実践してきたかを語った。日本人は近い存在を過小評価する傾向にある。まずはそれに気づき焦点を当てる。情報は外から内側に出す。できるだけ遠方の方がいい。八年続けてローマ教皇に「神子原米」を献上した。役所やJAから自立自活するため、農家だけで作った株式会社を立ち上げる。自然栽培米の販売は誰もやらないからやった。宣伝は東京で試食を行った。安売りすることなく高い



原米に神小原米を  
 大使にカステッロ  
 献上する高野氏

値段で販売している。

協働する上で、私たちはどう考えればよいか？

①集落・町は会議や印刷物では決して変化しない。本質を見抜き対応

②実行できるシステム力。人によれと命令するのではなく、範を示す。他者の力が条件ではなく、自分の出来る責任の範囲で

③もし、私が市長（首長）だったらと常に考える

④市の構成する最小単位で考える「市」が、「家」や「人」だったらと考える

⑤公務員は「役人」（役に立つ人）少子高齢化が進んでいると嘆くだけの地域がダメ

⑥予算がないことをできない理由（言い訳）にしない

⑦公務員は給与の三倍以上の仕事をしているのか常に考える

⑧可能性の無視は最大の悪策。百年嘆いても変化しない

⑨できないと他人が思うことを成し遂げる大きな喜び

⑩狭い経験と曖昧な知識によって全てを判断していないかを考える

⑪他（人・物）を利用するのはなく、活かしているのか

最後に能登半島で行っている事について夢を語った。自然栽培し

ている野菜は腐らずに枯れる。お米は腐敗せずに発酵するのだとか日本一、安全安心な食材を創りだしているという自負。遺伝子組み換えをせず、在来種・固定種で栽培している食物が能登半島にもある。生物が豊かで、安全な環境が残る場所。TPPで勝てる農産品があるではないか。世界一安全な食材をつくり、食べさせてくれる能登半島や日本に「人」が来ない訳がない！



### ○分科会

#### 第一分科会

##### 『環境保全』

石川県白山自然保護センター  
所長 榎 典雅様

##### 実践発表

「生態系を守る  
「ホテルの里をめざして」

尾口ホテルの会  
活動内容は生息地の保護と、ホテル観察会の開催。最近、ホテルを見たことがない子どももいる。又、白山麓に生息するホテルの調査研究や生息地出の交通整理などを行っている。

ホテルの生態の説明と、ホテルの住める環境（きれいな水・餌の「カワニナ」がいる・明りが無い）等の報告

##### 「ゴミ減量の取り組み

「ボカシで地域づくり」  
野々市生活学校

資源ごみの分別が軌道にのり、生ごみの減量へ取り組み三十年余り。ボカシを作り、販売している。効果を実証するための実習田では、大根・からし菜などを栽培し、収穫した作物を加工して販売。活動の自主財源にしている。もち草団子や昔遊びの伝承などを通じ、子ども、学生、お年寄りとも交流をもっている。

### 第二分科会

#### 『地域づくり

##### 「安全・安心な暮らし」

石川県消費生活支援センター  
学習課長 宮前一朗様

##### 実践発表

「寸劇で高齢者の  
消費者トラブルを防ぐ」  
小松生活学校

平成二十一年に活動の再スタートを切る。行政からの支援はなし。身近な問題からと郷土食の見直しと環境問題に取り組んだ。県役員会での話をきっかけに、寸劇で高齢者の消費者トラブルを防ぐため、老人会に直接交渉して披露すること。演目のレパートリーも増え、被害防止を訴え続けている。



寸劇披露の様子



山中節を披露する川井康子さん

「おしゃれ茶会でいきいきと」

美川生活学校

平成十一年の介護保険の調査活動をきっかけに、高齢者の支援について何ができるかを模索。県内施設の見学や、老人会との対話。老人福祉センターに意見箱を設置し、利用者の感想を聞く。福祉課や「町民開放町長室」で調査結果を報告。平成十五年「私たちの生活132号」で紹介されていた愛知県幸田町生活学校の「生き生きサロン」を見学交流後、おしゃれ茶会を開催して十年になる。

### 第三分科会

『生活学校研修会』

協会主催

### ○交流会

石川県PRビデオを流す

山中節

(唄・演奏 羽咋生活学校

川井康子)

歓迎のあいさつ

石川県県民文化局

局長 森田美恵子様

乾杯挨拶

全国生活学校連絡協議会

会長 金山富士子様

百万石音頭

(踊り 金沢生活学校)

次期開催地(兵庫県)へ引き継ぐ

### ○生活学校代表者会議

### ○分科会報告と全体協議

第一分科会報告者

羽咋生活学校 川井康子

第二分科会報告者

宇ノ気生活学校 中井美智子

### ○あしたの日本を創る協会の 説明・質疑



森田美恵子局長の歓迎のあいさつ

### ○閉会行事

閉会挨拶

石川県新生活運動協議会

常任理事 新村健了様



交流会  
百万石音頭を参加者の皆さんと一緒に踊る

### 表彰状・盾



平成25年度  
「消費者支援功勞表彰」内閣総理大臣表彰を受ける。  
全国生活学校連絡協議会が、震災復興支援を全国運動のテーマに掲げ、「ひまわりアクリルたわし」を販売。売り上げを仮設住宅居住者に還元する支援を全国の生活学校で支援した事に対する表彰